あいづわかまつ
文化財だより
受け継がれ引き継いでいく文化財の今を情報発信

発　行
会津若松市教育委員会
編　集
会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第25号
平成30年4月1日
(2018)

江戸末期の家老屋敷跡 ～ICTオフィス建設地の発掘調査～

◎の箇所から五輪塔が出土しました。

発掘現場の全景

人物紹介…一瀬要人（いちのせかなめ）

一瀬要人隆知は、正式な名前を隆知といいます。一八三一年に一瀬家の長男として会津に生まれ、家督を継いだ際に「要人」を襲名しました。

朝廷には反抗せず、戦争をしないための努力を続けていましたが、最後は会津を守るために自ら戦い、会津藩の家老13人のうち、唯一戦死した人物です。

このICTオフィス建設地（旧JT跡地）の発掘調査を行った場所は、江戸時代末期に一三五〇石の家老であった一瀬要人邸にあたります。

この一瀬邸は、五九〇〇㎡（約一八〇〇坪）もある大きな屋敷で、現在のマイロード（鶴城小～追手門間）側中央に表門がありました。今回は、ICTオフィスの建物が建設される範囲のみを発掘調査したことから、屋敷全体の様子を知ることは出来ませんでしたが、当時の建物跡、溝跡、井戸跡などを確認しました。

また、屋敷地の中から、墓や、溝跡に捨てられた状況で五輪塔などが出土しました。これらは、蒲生氏郷により町が作り直され武家屋敷が造られる以前に、この場所がお寺であったことを示しています。

文献でも、蒲生氏郷の町づくり以前には、侍屋敷やお寺、職人、商人の家が混在していたと伝えられていますが、これを裏付ける調査結果でした。

写真右下が発掘現場。マイロードの先に天守閣が見えます。

文化財を守る
文化財を次世代につなぐための取り組みです

御薬園

●御茶屋御殿の工事

東日本大震災により被災した、御茶屋御殿の修復工事が終了しました。

平成26・27年度に、明治期に増築された二階建て建物、平成28・29年度に江戸期に建てられた茅葺屋根の建物の修復を行いました。

屋根が葺きかえられた御茶屋御殿

文化財建造物の修復は、現状を大幅に変更することなく、利用できる部材はできるだけ活用することが基本です。

建具や壁などを剥がしながら、過去の修復の痕跡などを確認し、文化庁調査官や専門の先生方のご指導により、一つ一つ修復方針を検討しながら慎重に工事を進めました。

また、文化財としてふさわしい建物となるよう、壁の修復など、本格的な工法を用いることも基本方針としました。

壁や欄間が修復された東側広縁

とは言え、多くの方が利用する建物ですので、耐震補強を施すなど、安全対策も行いました。

御薬園ご利用のみなさまには、四年間、ご不便をおかけしましたが、無事、修復を終えることができました。

今後も、多くのみなさまにご利用いただけるよう、文化財の保存に努めてまいります。

院内御廟散策会

東山町にある会津藩主松平家墓所（院内御廟）は、2代から9代の歴代会津藩主とその家族が眠る広大な墓所です。

墓所には、高さ数メートルを超す墓石や灯籠、藩主の功績を記した碑石やそれを支える亀趺（通称亀石）など、たくさんの石造物があります。

毎年、それぞれの石造物の役割や、会津藩と御廟の歴史についての文化課職員の解説とともに史跡内を巡る歴史散策会を開催しており、平成29年度はシャガの花が御廟の森を彩る5月14日に実施し、県内外から多くの方が参加されました。

2代藩主正経（まさつね）の碑文の解説。
仏式の藩主のお墓はここだけです。

平成30年度も市政だよりや市のホームページで実施予定をお知らせします。身近な史跡について詳しく学べる機会ですので、ぜひ一度ご参加ください。

第64回文化財防火デー！

毎年1月26日は、文化財防火デーです。昭和24年に法隆寺金堂壁画が被災したことを契機に、文化財を火災等から守り、その大切さを伝えるために制定されました。

本市では毎年、文化財防火デーにあわせて、火災防ぎょ訓練や、防火査察を行っています。

●火災防ぎょ訓練

今回は、館馬町にある「蒲生秀行廟」で、1月28日（日）に訓練を実施しました。

今回の訓練では、廟を管理する弘眞院のご住職並びに檀徒の皆さま、会津若松市消防団第11分団・4分団・1分団、会津若松消防署にご協力いただきました。

●防火査察

防火査察は、文化財建造物を対象に、防火設備の点検や、防火・防災指導等を行うものです。

本市では毎年、会津若松消防署のご協力のもと、二班体制で9箇所の査察を行っており、今回は1月19日（金）に実施しました。

消火栓を点検する様子（茶室麟閣にて）

積雪の中、緊迫感のある訓練が行われました。

文化財に出会う

開発等により失われてしまう遺跡や、重要な遺跡を調査し、記録を残していきます

田中遺跡

河東町槻ノ木地区で行われているほ場整備に伴い、発掘調査を実施しました。

調査地は、国指定重要文化財である延命寺地蔵堂（藤倉二階堂）から、県道を隔てて西側に位置します。

調査では、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、室町時代、江戸時代の土器が出土しました。中でも、古墳時代の終わりごろから奈良時代にかけて生産された、土師器（はじき）と呼ばれる素焼きの土器が多く出土したことが特筆されます。

発掘作業の様子

土師器が集中して出土した周辺には、焼土や炭化物が分布しており、土師器を焼いた穴と考えられる遺構もいくつか見つかっています。

集中して出土した土師器

土師器は、古墳時代まではロクロを使わずに作られていましたが、奈良時代に入るとロクロを使って作られるようになります。

田中遺跡では、奈良時代のロクロを使わない土師器と、ロクロを使った土師器の両方が見つかっており、ロクロ使用へと移り変わる、この時代の土師器生産を考える上で貴重な発見となりました。

会津地方では、現在のところ、奈良時代の遺跡はあまり見つかっておらず、平安時代に入り遺跡数が急激に増加します。

この理由は明らかではありませんが、あまり解明されていない奈良時代の資料の出土により、今回の調査が、古代会津の様相をひも解く、手がかりとなることが期待されます。

高野地区の試掘調査

高野地区で予定されているほ場整備に伴い、遺跡の試掘調査を実施しました。

上高野集落の北側から西側にかけての範囲を調査し、建物の柱穴や溝跡などが発見され、平安時代前期（9～10世紀）の土器などを出土しました。

大きな柱の跡が並んで発見されました

その中には、墨書された土器が3点含まれており、そのうち2点は「高」と書かれていました。この文字の墨書土器は、ここから北西約1㎞に位置する上吉田遺跡でも発見されています。

「高」と墨書された土器

もう1点は、「止番」あるいは「止吉」と読めるものです。

これらの文字が何を意味するかはわかりませんが、当時、文字が書ける身分の人が、この周辺に住んでいたことは明らかです。

ここから北西約1.5㎞に位置する矢玉遺跡では、倉庫群や木簡が出土していますので、調査地周辺には、一般集落とは違う遺跡が広がっていたと考えられます。

◆文化課に遺跡の有無を確認してください。

本市では、文化財保護法に基づき、市内およそ五〇〇箇所にのぼる遺跡の保護や調査を行っています。

工事等で掘削を行うと、遺跡を壊してしまう恐れがあるため、工事箇所が遺跡に該当するのかどうか、事前に文化課へ照会してください。その上で、工事箇所が遺跡に該当している場合は、文化課との事前協議および届出が必要となります。

なお、遺跡の範囲は更新される場合があります。以前に照会済み、工事済みの箇所であっても、再度照会を行ってください。

文化財を活かす

地域で親しまれている文化財を、まちづくりや観光振興に役立てます

登録有形文化財

登録有形文化財は、建造から50年を経過した歴史的建物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録するものです。

これにより、多くの建物が保存され、まちづくりや観光などに積極的に活用されることが期待されています。

本市ではこれまでに、東山町の向滝旅館、材木町の林家住宅、西栄町の日本基督教団若松栄町教会が登録されていましたが、新たに平成29年10月27日付けで、材木町の旧鍋三本店（星野家住宅）の客座敷と土蔵の建物が、登録有形文化財となりました。

旧鍋三本店の客座敷

土蔵
（右側の白い建物。左は主屋。）

この建物がある材木町の通りは、日光と会津若松を結ぶ重要な幹線で、材木町は城下の外れでした。

この道路沿いにある旧鍋三本店（星野家住宅）は、昭和7～8年にかけて建築された建物で、客座敷には吟味された良材を用い、襖絵には当時の著名な画人による絵もみられます。白漆喰塗りの土蔵は重厚な構えを見せています。

星野家は元材木商で酒造業も営む豪商で、建物の東側には会津の三庭園といわれる可月亭が広がっており、たびたび藩主も立ち寄ったといわれています。

「まなべこ」の活動

●展示

歴史資料センター「まなべこ」では、今年度の常設展として、「昔のくらし」をテーマに、昭和の生活を再現した展示を行っています。昔の生活道具を初めて目にする子供たちだけではなく、当時をよく知る大人も楽しめるとたいへん好評の展示です。

昔の道具について解説を聞くようす

平成30年度の春には、戊辰150年にちなんだ常設展への展示替えを行います。ぜひ足をお運びください。

また、年間4～5回、より身近な歴史や文化をテーマにした企画展も開催していますので、そちらもぜひ、お楽しみください。

●講座

まなべこでは、お城や城下町を実際に歩きながら学ぶ講座や、さまざまな講師を迎えた講演、ワークショップなどを開催しています。市政だよりやまなべこホームページで、講座の情報をご覧ください。

ワークショップでのガリ版刷り体験！

郷土研究作品の募集

郷土会津の文化振興を目的に、会津地方に関する郷土の調査・研究等を行った作品を毎年募集・奨励しています。

ここで、平成29年度に特別奨励賞を受賞した2作品を紹介します。（学校・学年は平成29年度時点）

◎「広げよう！会津の伝統野菜」永和小学校6年　江川里咲さん

小菊かぼちゃ、余蒔胡瓜や丸茄子などの会津伝統野菜について、本を調べたり、実際に農林高校やお店、生産者を訪ねて勉強し、さらに自分で栽培し調理し、種までとるという、とても丹念に調べ上げた素晴らしい作品です。

◎「鏡ヶ沼伝説と会津の水神信仰」会津高校3年　伊関武蔵さん

生まれ育った町の沼にまつわる伝説について、古文書や市町村史を調べ、子孫へのインタビューも行い、仮説を立てて調査し考察するという研究手法やまとめ方が素晴らしい作品です。

準奨励賞以上の作品は、歴史資料センター「まなべこ」や会津図書館で見ることが出来ますので、ぜひご覧ください。

平成30年度の募集要項については、5月1日以降発行の市政だよりまたは市ホームページを参照してください。